

既往調査凡例

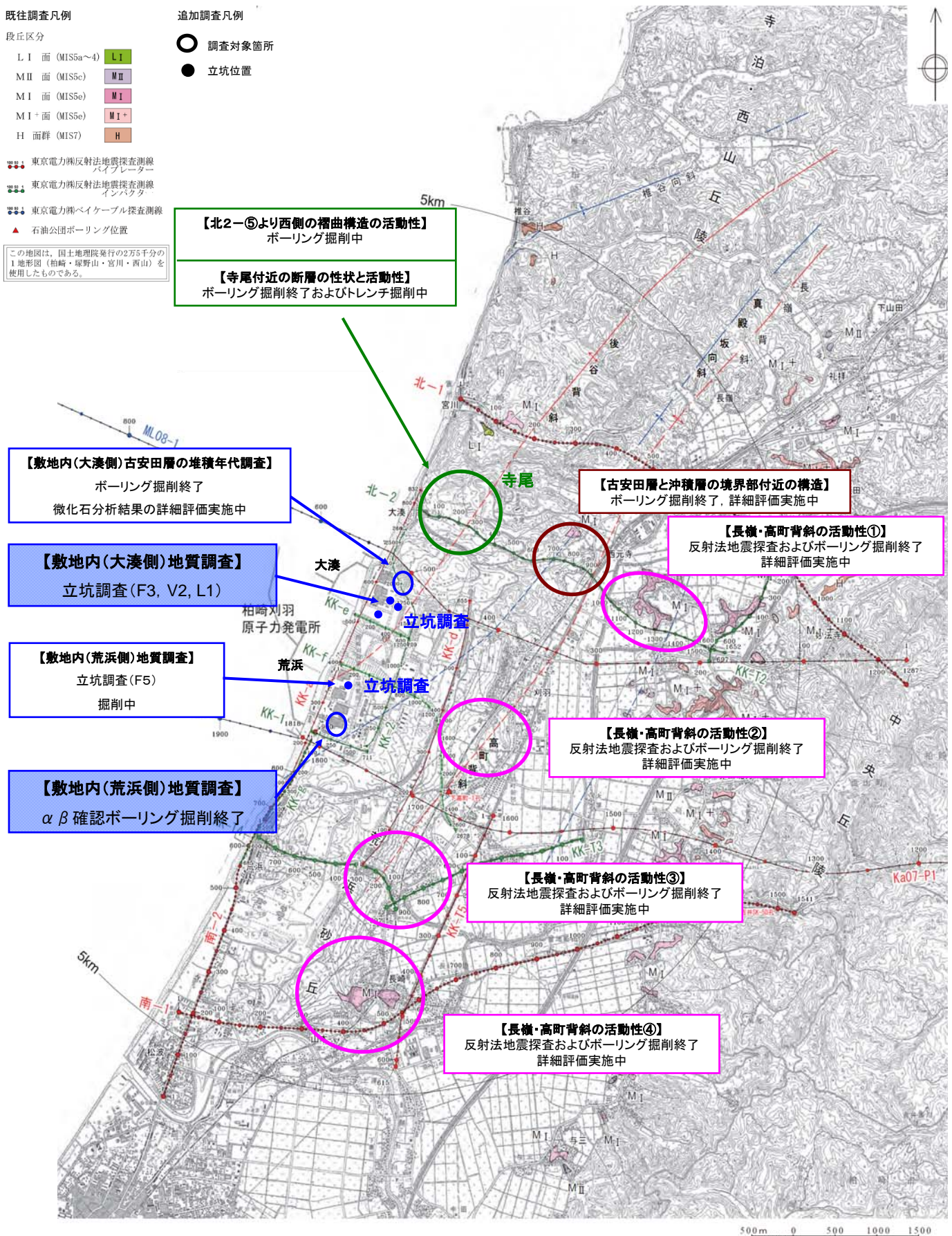
- 段丘区分
- L I 面 (MIS5a~4) L I
  - M II 面 (MIS5c) M II
  - M I 面 (MIS5e) M I
  - M I + 面 (MIS5e) M I +
  - H 面群 (MIS7) H

- 東京電力㈱反射法地震探査測線  
バイブレーション
- 東京電力㈱反射法地震探査測線  
インパクト
- 東京電力㈱ベイクープル探査測線
- 石油公団ボーリング位置

この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図(柏崎・塚野山・宮川・西山)を使用したものである。

追加調査凡例

- 調査対象箇所
- 立坑位置



柏崎刈羽原子力発電所6、7号炉の新規制基準適合性に関して伝達した事項

平成26年1月24日  
第72回審査会合  
原子力規制庁

### 1. 敷地内断層

- ① 大湊側敷地内については断層性状を最新情報に更新し、最新活動時期と断層の切り／切られ関係を十分に検討し、代表性を有する断層を特定すること。
- ② 荒浜側敷地内についても、①と同様に最新情報を用いて説明すること。
- ③ 断層の活動性をトレンチ調査等によって直接確認するため、上載層があって掘削可能な地点を敷地内もしくは敷地外に選定し提示すること。
- ④ ③の調査地点を検討するため、ならびに、安田層・古安田層の年代特定を確実にするため、現地調査において以下の準備をすること。
  - 敷地内で掘削されたボーリングコアを、観察可能な状態に準備すること。特に、安田層・古安田層およびその他の第四系が観察可能なコア、ならびに断層を確認できるコアを準備すること。
  - ボーリングコアから採取されたテフラ、微化石の分析結果を参照可能なように、資料を準備すること。
  - 大湊側においても古安田層の年代特定のためのボーリング調査を計画すること。

### 2. 敷地周辺地質構造

- ① 北-1測線における反射法地震探査断面及びボーリング調査結果を提示すること。
- ② 北-2測線について、北2-⑤よりもさらに西の区間及び背斜構造・向斜構造を含む区間について、既存ボーリングの間隔を補完するように稠密群列ボーリング調査を計画すること。
- ③ 北-2測線について、安田層と沖積層の境界部における安田層の構造を明らかにすることを目的として、稠密群列ボーリング調査を計画すること。
- ④ 寺尾地点で報告されている断層の延長部において、背斜軸付近の断層の有無を確認することを目的として、稠密群列ボーリング調査を計画すること。
- ⑤ 寺尾付近の断層の活動性をトレンチ調査等によって直接確認するため、上載層があって掘削可能な地点を選定し、提示すること。
- ⑥ 高町背斜の活動性を確認するため、ML08-1測線、KK-f測線（ML08-2測線）、KK-T4測線、南-1測線において、浅層反射法地震探査及び稠密群列ボーリング調査を計画すること。

### 3. 海上音波探査

- ① F-B断層の東側に存在する背斜構造とそれに付随する断層を横切る測線の音波探査断面について説明すること。
- ② 上記の背斜構造について陸上延長部における地質構造との連続性について説明すること。